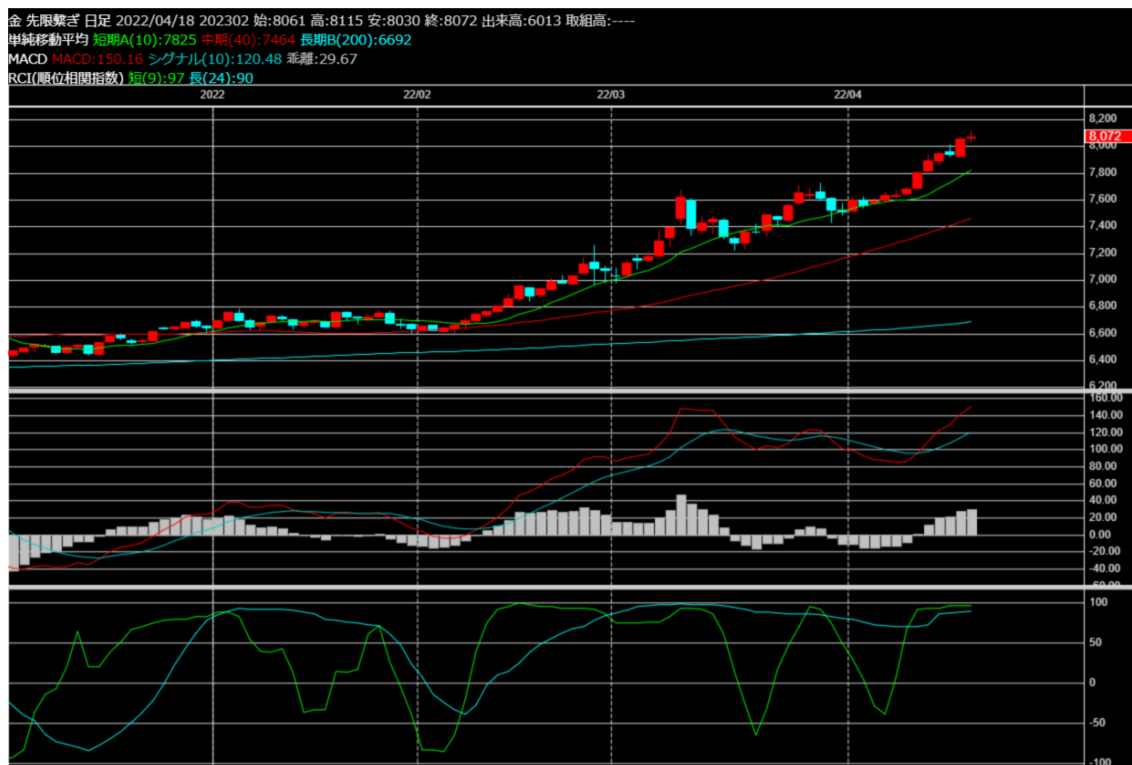


＜金標準先物、米国実質金利 1 年 3 ヶ月ぶりのプラスへ・・・＞



(出所：オアシス)

米国の3月消費者物価指数（CPI）の前年同月比で事前予想を上回る8.5%となり、1981年以来の大幅な伸びを示し、生産者物価指数（PPI）も前年同月比でも11.1%となるなど2010年以降で大幅な伸びを示すなどインフレ高の動きが鮮明になっている。

また欧州では、ロシア軍のNATO軍に加盟できなかったウクライナへの侵攻を受け、中立国を維持してきた北欧のスウェーデンやフィンランドがNATO加盟を正式に表明し、ロシア政府はスカンジナビア半島に向けて核配備の発言を行うなど、地政学的なリスクの拡大が欧州で再確認されている。

特に金標準先物の価格は、地政学的なリスクの拡大や為替市場の円安を受けて週末には8115円まで高値を試すなど、高値追いを見せている。しかし金価格を押し上げていた要因の一つである米国実質金利で2020年1月27日以降のマイナス金利が、10年債金利の上昇に伴い週末で-0.06%まで上昇しており、来週以降でプラスサイドへ変化して来る動きが予想され、米国実質金利のプラス圏浮上も視野に入り始めた事で、金市場への投資家のリスク選好姿勢が抑制される可能性が高くなると予想される。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足をMACDとRCIで見ると、MACDではMACDとシグナルが上昇を維持しながら、RCIでも短期と長期が+90%を超えて横ばいするなど、オシレーターは強気を維持している。ただ日足が10日移動平均線と乖離幅が拡大しており、3月同様に買われ過ぎを示しており、7800円へ向けた調整安には注意したいと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,214,000 円(2022 年 4 月 18 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 4 月 18 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>